

— 戦後 80 年に振り返る —

長野県に疎開した文化人

小林一郎



虚子庵

長野郷土史研究会

目次

長野県に疎開した文化人名簿……2

(出身) は出身地への疎開、(死去) は疎開先の長野県で死去。但し、これらの情報を記載していない人物もいる。*は裏表紙に写真を掲載

市町村別索引……15 「解説」 集団の疎開……18

疎開した子供たち―疎開体験の手記を読む……20

本年令和7年(2025)は、昭和20年(1945)の終戦から80年になる節目の年です。今こそ、戦争を振り返らなければなりません。

この戦争で長野県は、疎開地として利用されました。長野市松代町への大本営の移転計画も、長野県への疎開ととらえることができます。長野県は首都圏と比較的に交通の便がよく、しかも山間部を含めて広大な面積があったからです。

疎開の形態には、帰省や親戚・知人を頼った個人的な疎開のほかに、工場、研究施設、大学、病院、劇団

などの疎開に伴う集団的なものもありました。学童疎開も集団的な疎開です。

戦後すぐに長野県から大きく羽ばたいていった人がある一方で、何年も残って戦後の県内の文化に寄与した人や、そのまま長野県に骨を埋めた人もいます。

地域的に見ると、大都市の長野市と松本市に疎開した人が多いのは当然です。避暑地として平生から別荘の多かった軽井沢町は、東京に近いこともあって、疎開しやすい場所でした。また外国人は、監視下に置くために軽井沢に強制疎開させられました。

次頁からの名簿は、長野県に疎開した人々の中から文化人を中心に354人を取り上げ、その疎開先を記しています。国立国会図書館のデジタルコレクション等を活用して、長野県に疎開した人々の情報を集めました。頁数の関係で人数を限定しましたが、これ以外にも長野県に疎開した文化人は少なくありません。また今回は取り上げませんでしたが、これとは別に多数の政治家や経済人も長野県に疎開しています。

著者プロフィール

こばやし いちろう
小林 一郎

長野郷土史研究会会長

昭和25年生まれ。長年、善光寺を始めとする長野県の歴史を研究。

『善光寺縁起ものがたり』『善光寺に手紙を送った聖徳太子 1400年の交流』『善光寺を守る諏訪の神と御柱 付・全国各地方の御柱一覧』など著書多数。

これまでに、長野郷土史研究会として発行してきた小冊子のシリーズに、以下の4冊がある

『長野県県名誕生150年 長野県の始まりを担った人々』（2021年）、

『善光寺御開帳年表 長野の人々の期待と思い出の記録』（2022年）、

『100年前の関東大震災と長野県』（2023年）、

『長野県初の人名録に載った長野市と北信の438人

—大正13年版『信毎鑑』より—』（2024年）

せんご ねん ふ かえ —戦後80年に振り返る— ながの けん そ かい ぶん か じん 長野県に疎開した文化人

令和7年（2025）8月5日発行

著者 小林一郎

編集協力 小林玲子 小林竜太郎

発行所 長野郷土史研究会

〒380-0834 長野市問御所町1257-1

kyodoshi@janis.or.jp

印刷 信教印刷株式会社

表紙 俳人高浜虚子が小諸市与良町に疎開した際に居住した建物。移築され、

「虚子庵」として、小諸市が公開している（撮影：長野郷土史研究会）

裏表紙 国立国会図書館「近代日本人の肖像」より（五十音順）

表紙デザイン 近藤弓子